

小児等在宅医療連携拠点事業について

背景・課題

- 新生児集中治療管理室(NICU)に入院する小児等を受け入れる在宅医療・福祉連携体制の早急な整備が求められている。
- NICUを退院し在宅医療に移行する小児等については、専門医療機関との連携の必要性や、福祉・教育等との連携の重要性など、特有の課題に対応する体制の検討が必要である。

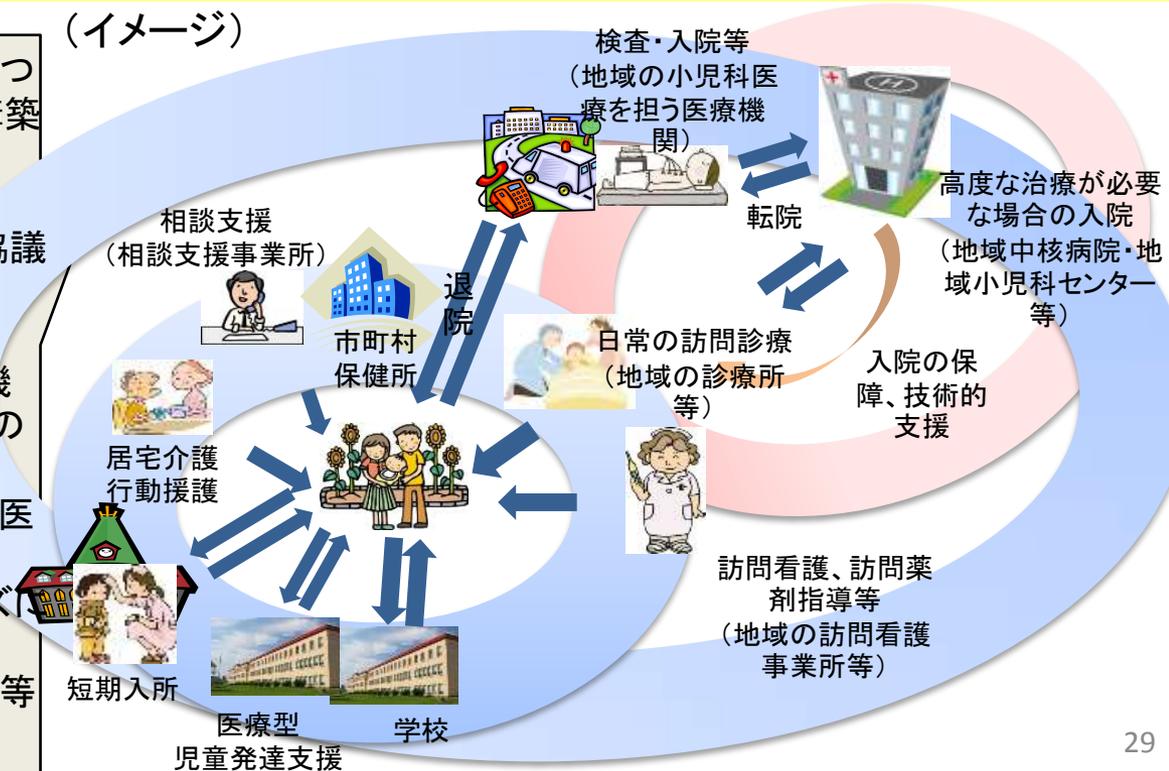
本事業の目的・概要

- 医療計画に基づく在宅医療の提供体制の推進状況を踏まえ、地域において小児等の在宅医療に取り組む医療機関、訪問看護事業所等の拡充、医療・福祉関係機関間の顔の見える関係の構築、関係者への研修の提供等に取り組むことにより、小児等が安心して在宅に移行できる医療・福祉連携体制を構築する。
- 在宅にて療養を行う医療依存度の高い小児等及びその保護者に対し、患者の症状等に応じて、医療的ケア等に係る不安が生じた際の療養上の助言等や、かかりつけ医等の関係機関等との調整を行う相談支援体制を整備する。

以下の活動等を通して地域における包括的かつ継続的な在宅医療を提供するための体制を構築する。

- ① 行政、地域の医療・福祉関係者等による協議の場の開催
- ② 地域の医療・福祉資源の把握・活用
- ③ 小児等の在宅医療の受入が可能な医療機関・訪問看護事業所数の拡大、専門機関とのネットワークを構築
- ④ 地域の福祉・行政関係者の小児等の在宅医療への促進
- ⑤ 小児等の患者・家族に対して個々のニーズに応じた支援
- ⑥ 患者・家族などに対して、小児の在宅医療等に関する理解の促進や負担の軽減

(イメージ)



1 事業の再委託について

- ・基本的には都道府県が主体的に取り組むこととするが、専門性が必要な事業等について、委託により実施することも可能。

2 配置すべき職員等について

- ・専任の職員
 - ・担当する医師
 - ・当該地域の医療資源及び福祉資源に詳しい職員
(他業務との兼務でも差し支えないが、勤務時間の少なくとも2割程度を拠点事業に割けるような体制とすること)
 - ・医療的ケアに関する家族支援や、退院支援などの経験を有する看護職員
(他業務との兼務でも差し支えないが、勤務時間の少なくとも2割程度を拠点事業に割けるような体制とすること)
 - ・保健師(配置することが望ましい)
- ※ 各担当者が異なる施設に所属する場合には、定期的なミーティングの開催等、情報共有がきちんも行われる体制を確保すること。

- ① 協議会の開催
- ② 地域資源の把握と活用
- ③ 受け入れ可能な医療機関等の拡大と
専門医療機関との連携
- ④ 福祉、行政、教育との連携
- ⑤ 患者・家族への個別支援
- ⑥ 関係者の負担軽減・理解促進

①協議会の開催

○背景・目的

地域によって、医療資源の状況や患者の受療動向が異なることから、地域の医療・福祉関係者が、地域の実情を踏まえ、課題を抽出し、その課題を解決するために取り組むことが必要である。

○内容

市町村等の行政、地域の医療・福祉関係者等による協議の場を定期的開催し、小児等の在宅医療における連携上の課題の抽出及びその対応方針を策定すること

(具体例)

- ・ 都道府県が中心となり、二次医療圏もしくは障害福祉圏域で、市町村、保健所、医師会、小児医療関係者、在宅医療関係者、福祉関係者、特別支援学校関係者等からなる会議等を開催し、地域の小児等の在宅の課題の抽出及び対応方針を策定する。
- ・ 都道府県の障害福祉計画や高齢者を含めた在宅医療推進施策と連携する形で、推進を図る。



在宅ケアワーキング委員会・運営委員会の設置

相談支援員、特別支援学校職員、福祉事務所等小児特有の関係者も追加

●委員構成

事務局 ・医師1名 ・看護師1名 ・MSW1名 ・事務員1名

在宅ケアワーキング委員

- ・医師1名 ・ケアマネージャー3名 ・訪問看護師2名 ・訪問薬剤師1名 ・訪問理学療法士1名
- ・訪問介護従事者1名 ・**盛岡市高齢者支援室担当者1名**

運営委員 ・**岩手県県央保健所担当者1名** ・**岩手県長寿社会振興財団1名** ・**病院医療相談担当者2名**

●委員会の開催状況

日程	主な議題
6月1日(水)	顔合わせ、在宅医療連携拠点事業の趣旨説明・事業内容説明
7月7日(木)	研修会(多職種情報交換会)の詳細検討・課部門別課題の今後の取り組み
9月7日(水)	医療・介護資源実態調査の検討
11月9日(水)	中間とりまとめと今後の方向性
2月1日(水)	行政担当官との意見交換会の詳細検討
3月14日(水)	総括

●概要

隔月1回のペースで、実務者レベルでのワーキング委員会を開催。

在宅医療にかかわる多職種を委員としたことは、多職種合同カンファランス、研修会、調査等の企画に伴う実態の把握において有益であり、より現状に即した企画運営を行うことができる。

また、委員それぞれが所属の団体へ課題を持ち帰り、解決へ向けて動き始めている。

協議会での課題の抽出

(3) あおぞら診療所墨田

* 全体会議(23区内の多職種対象)

具体例: 全体会議(2ヶ月に1回程度開催)

○参加者(23区全体より64名参加)

行政の障害福祉課職員、相談員、学校教員、進路コーディネーター、訪問看護師、ヘルパー、医師、看護師、PT、MSW、保健師、児童福祉施設関係者等

○内容

「地域の中で小児在宅医療に関わる際に困難に思う事」というテーマでグループディスカッションを実施し、K-J法により課題を抽出。

○課題の抽出

678項目が抽出され、165項目に整理統合。

その中で、「連携」に関わる項目が最多であった。

連携に関わる項目を整理集約して課題を抽出。

- 病院と地域が繋がっていない
- 病院と地域の医療連携のメソッド構築が必要
- 医療以外の社会資源が乏しい
- 生活を支える社会資源の不足

○解決策の検討

- 病院と地域をつなぐためのクリティカルパス作成
 - 訪問スタッフと行政、教育等を繋げる相談支援の人材育成 等
- * 墨田区を対象とした地域連携会議も開催。

(全体会議の合間に開催)



②地域資源の把握と活用

○背景・目的

- ・地域の在宅医療・福祉連携体制構築に当たっての課題を抽出するためには、地域の医療・福祉資源の実態等を把握することが必要不可欠である。
- ・また、把握した情報を整理し、地域の医療・福祉関係者と共有することにより、地域の医療・福祉連携の構築に活用することが可能である。

○内容

地域の医療・福祉等資源を把握し、整理した情報の活用を検討すること

(具体例)

- ・地域の小児患者の数と分布を把握する。
- ・小児在宅医療患者を受け入れる病院、診療所、訪問看護ステーション、訪問介護事業所、通園施設、特別支援学校、短期入所施設(老人健康保健施設を含む)等を把握し、退院支援の際や既に外来医療を受けている患者に参考にできるように整理し、地域の医療・福祉関係者に提供する。
- ・地域の短期入所施設の空き状況をインターネット上に掲示する。

アンケート調査の実施と調査結果のデータベース化・ホームページによる情報発信

主任介護支援専門員へのアンケート調査

・事業開始時(H23.7-8)にニーズ把握のため実施。調査結果をアクションプランの立案の基礎とした。

医師へのアンケート調査～連携シート作成



- ・鶴岡市長寿社会課が運営する基幹型地域包括支援センターと連携してアンケートを実施。
- ・178名の医師からアンケートを回収。
- ・Accessデータベース化を行い、相談業務に活用。
- ・冊子化を行い、120部をケアマネジャーを中心に医師会、山形県、保健所、鶴岡市等に配布。

医療依存度の高い方の施設受け入れ情報調査～データベース化と公開



- ・「庄内地域医療連携の会」と連携して調査実施。
- ・175施設からアンケートを回収。
- ・Accessデータベース化を行い、相談業務に活用。
- ・冊子とAccessをケアマネジャー、連携室等に配布。

在宅医療地域資源マップ



地域内の在宅医療資源を地域や施設の機能で検索することができ、地図へのマッピングや、在宅医療に関する情報を閲覧できる。

ショートステイ空き情報

サービス事業名	電話番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
ゆき雪(多床室) 空き	25-2881	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
ゆき雪(個室) 空き	25-2881	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
ゆき雪 空き	25-6111	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
あけやま 空き	39-0250	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
しんあま 空き	78-0735	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
ゆき雪 空き	43-2355	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
ゆき雪 空き	04-5980	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
ゆき雪 空き	62-2223	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
ゆき雪 空き	62-2223	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
ゆき雪 空き	67-3222	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
ゆき雪 空き	53-2300	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
ゆき雪 空き	58-1335	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
ゆき雪 空き	66-4821	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
ゆき雪(個室) 空き	66-4821	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
ゆき雪 空き	25-8255	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
サテライト老健のぞみ 空き	25-8255	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
サテライト老健のぞみ 空き	25-8255	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
サテライト老健のぞみ 空き	25-1131	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
サテライト老健のぞみ 空き	25-1131	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
ショートステイあけやま(生活介護)	25-1131	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△

地域のショートステイの空き情報が確認できます。ほたるが責任を持って毎週情報を更新しますので、情報の鮮度が保たれています。

③受け入れ可能な医療機関等の拡大と専門医療機関との連携

○背景・目的

- ・小児等に対し地域において在宅医療・訪問看護等を提供できる医療・福祉資源が十分とは言えない。
- ・NICU等からの円滑な退院や、医療密度の高い児等を支えるためには、NICUを有する医療機関等の専門医療機関と地域の医療・福祉関係者の連携が必要である。

○内容

小児等の在宅医療に関する研修の実施等により、小児等の在宅医療の受入が可能な医療機関・訪問看護事業所数の拡大を図るとともに、専門医療機関とのネットワークを構築すること

(具体例)

- ・医師会等の協力を得て、地域の病院、診療所、在宅療養支援診療所等の医師を対象に、小児等の在宅医療に関する研修を実施する。
- ・特に小児を診療する医師、在宅療養支援診療所の医師に対して小児等の在宅医療への協力を働き掛け、小児等の受け入れが可能な医療機関のすそ野を拡大する。
- ・看護師、リハビリ職種に対しても小児等の在宅医療に関する研修を実施し、受け入れ可能な医療機関のすそ野を拡大する。
- ・小児医療や障害児者の専門機関と連携を取り、小児等の在宅医療への技術援助が得られる関係を構築する。

- 多職種に対するグループワーク等の参加型の研修
- 訪問診療等の体験型の研修
 - ・病院医師・医学生等の訪問診療同行研修
 - ・一般開業医に対する在宅医療同行研修
- 医療知識・技術等に関する伝達型の研修
 - ・喀痰吸引・CVポート・HOT等の体験、症例検討会、口腔ケア研修会の開催
 - ・介護従事者向けの研修の開催
 - ・職種別の研修、個別学習会の開催。
 - ・在宅リハビリ研修
 - ・ケアマネのスキルアップのために居宅介護支援事業所に出向き勉強会の開催
 - ・在宅医療機器勉強会の開催
 - ・ボランティア養成講座の開催
 - ・他事業所と一緒に同じ事例に関わる教育的在宅緩和ケアを実施。



効果

- ・他の業種の業務を理解し、自己が果たすべき役割の認識や連携の重要性への理解が深まる。
- ・実技を取り入れることで日常業務に直結する技術が身につけられる。
- ・研修を通して、顔の見える関係を築くことができる。
- ・同行研修により、医師が在宅医療に関心を持つきっかけとなる。
- ・他事業所の同職種との交流が良い刺激になる。

専門職の技術の向上

●職種別研修

実施日	対象者	テーマ	参加者
7/13	訪問看護師・薬剤師	「スキンケア・褥瘡ケア」	45
8/9	介護職	「看護の視点を生かした高齢者ケア」	81
9/27	介護・看護職員	「慢性腎不全・透析に関する学習会1」	77
10/11	介護支援専門員	「地域包括支援センターの困難事例」	71
11/14	医師	「事例検討会」医師間の連携	27
2/14	訪問看護師	「事例検討会」	35
3/7	介護・看護職員	「慢性腎不全・透析に関する学習会2」	85



- 職種が抱える課題に焦点をあてたテーマを設定
- 在宅医療を支えるスタッフのスキルアップ
- 多数の参加者と継続研修を熱望
- 「同じ研修を職場研修でしてほしい」「企画や構成を参考にしたい」などの高い評価

病院、一般診療所、在宅療養支援診療所の医師、訪問看護師などに対する研修会

(3) あおぞら診療所墨田

「在宅医向け小児在宅医療研修会」を開催。既に在宅医療を知っている医師が対象であるため、実践的な研内容とした。

対象： 診療所医師12名。

- ・在宅療養支援診療所で勤務している医師
- ・成人で寝たきり、気管切開、人工呼吸器などの医療ケアの必要な患者を在宅で診療したことがある医師

テーマ：

- ・「重症児の病態と特別支援学校の状況」
- ・「小児在宅医療における連携と知っておくべき制度」
- ・「NICUでの新生児医療から外来へ」等の8項目

【効果】

事前アンケートでは「小児在宅医療に関して分からない」「全く分からない」とする回答が多かった。

研修後アンケートでは「とても分かる」「分かる」との回答に変化。

この研修を継続することで、成人の在宅医療に従事する医師が小児在宅医療を実施する可能性の高さを感じた。



- ・平成23年度厚生労働科学研究『小児・若年成人の重度心身障がい者への在宅医療における技術確立と育成プログラム研究』にて、職種別の小児在宅医療関連の研修プログラムを作成中。

④福祉・行政・教育関係者との連携

○背景・目的

・医療・福祉連携の推進のためには、医療側から福祉側に積極的に働きかけを行うことが必要である。

○内容

地域の福祉・行政・教育関係者に対する研修会の開催やアウトリーチにより、小児等の在宅医療への理解を深め、医療と福祉等の連携の促進を図ること

(具体例)

- ・ 定期的な症例検討会、グループワークを取り入れた多職種
の研修会、交流会などを通じて、地域の福祉、行政、
教育関係者(介護士、障害者相談支援専門員、保健師
等の行政担当者や特別支援学校教員も含む。)との顔
の見える関係を構築する。
- ・ 福祉、教育関係者等のニーズに応じた研修会を実施す
る。



- ①福祉、行政、教育職との症例検討会等
- ②福祉、教育、多職種を対象とした研修

(1)長野県立こども病院

保健師、特別支援学校、療育施設、訪問看護師、患者家族を対象に特別支援学校で研修。

- ・ 障害児のための遊びと絵本(20名参加)
- ・ 挿管している子の口腔ケア(17名参加)
- ・ 障害を持つ子の口腔ケア(17名参加)
- ・ 胃ろうと栄養(39名参加)
- ・ 障害児教育のシンポジウム(74名参加)
- ・ 呼吸理学療法(40名参加)
- ・ 在宅医療を支える医療機器展

インターネットオンライン会議

医師・看護師、理学療法士、作業療法士がインターネットを通じて、患者の容態把握と技術支援を実施。

養護学校:12回、病院:6回、療育センター:2回、患者宅:3名、養育者支援:1名)。

・在宅医療支援チーム(Dr,Ns,PT)が他施設へ支援訪問(3病院、1診療所、1民間事業所、1特別支援学校)。

- ・ 退院支援コーディネータ(医師)が10の障害保健福祉圏域の地域自立支援協議会に出席し、各地域の障害者総合支援センターの活動を把握。

(2)埼玉医大総合医療センター

- ・ 市の自立支援協議会に参加し、相談支援専門員との連携を強化。
- ・ 多職種連携研修会1回(24名参加)。
- ・ 特別支援学校へ訪問し、技術支援8回。

(3)あおぞら診療所墨田

多職種を対象とした連携会議:

東京都23区広域で3回実施。

墨田区域で3回実施。

行政の障害福祉課職員、相談員、学校教員、進路コーディネータ、訪問看護師、ヘルパー、医師、看護師、PT、MSW、保健師、児童福祉施設等から多く参加。

出張勉強会

きっかけ…
ケアマネからほたるへの電話相談。



(参加者)7名
居宅介護支援事業所・地域包括支援センター職員
(講師)2名
ほたる

開催前に…聞きたいこと・学びたいことを事前に知るべく、事業所にアンケート調査を実施。

アンケート内容をもとに、福祉は行政担当部署、在宅医療は訪問看護師から情報を収集して開催準備。

ほたるのスタッフ（看護師・相談員）が事業所へ出向き、勉強会を開催。



【参加者の感想】

- ◆基礎資格が介護職のケアマネジャーは医療に弱いため「**医療サービスに繋がられない**」という大きな不安を抱えて、ケアマネジメントを行っている。
- ◆ケアマネジャーを対象にした研修会は多数行われているが、「**大きい規模ではなかなか聞けないこと**」を聞ける場を、小規模な勉強会として開催してくれることはとても心強い。



- ◆ケアマネジャーの医療に関する知識の底上げのためのひとつの手段として、出張勉強会にはニーズがあることがわかった。
- ◆ほたるによる出張勉強会の開催について、地域全体に周知していく。

出張勉強会の開催が、**ケアマネジャーの医療に対する苦手意識や不安感の軽減に繋がることを実感。継続事業として力を入れていく！**

⑤患者・家族への個別支援

○背景・目的

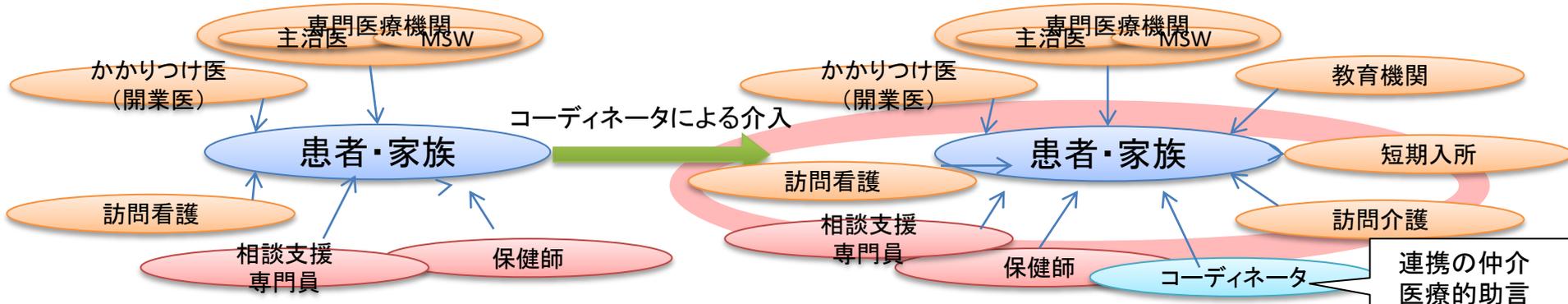
・小児等の在宅医療患者は重症度が高い場合が多い。医療・福祉・教育にまたがる様々なサービスが適切に調整されるためには、個別の症例について、個別のサポートが必要である。

○内容

関係機関と連携し、電話相談や訪問支援等により、小児等の患者・家族に対して個々のニーズに応じた支援を実施すること

(具体例)

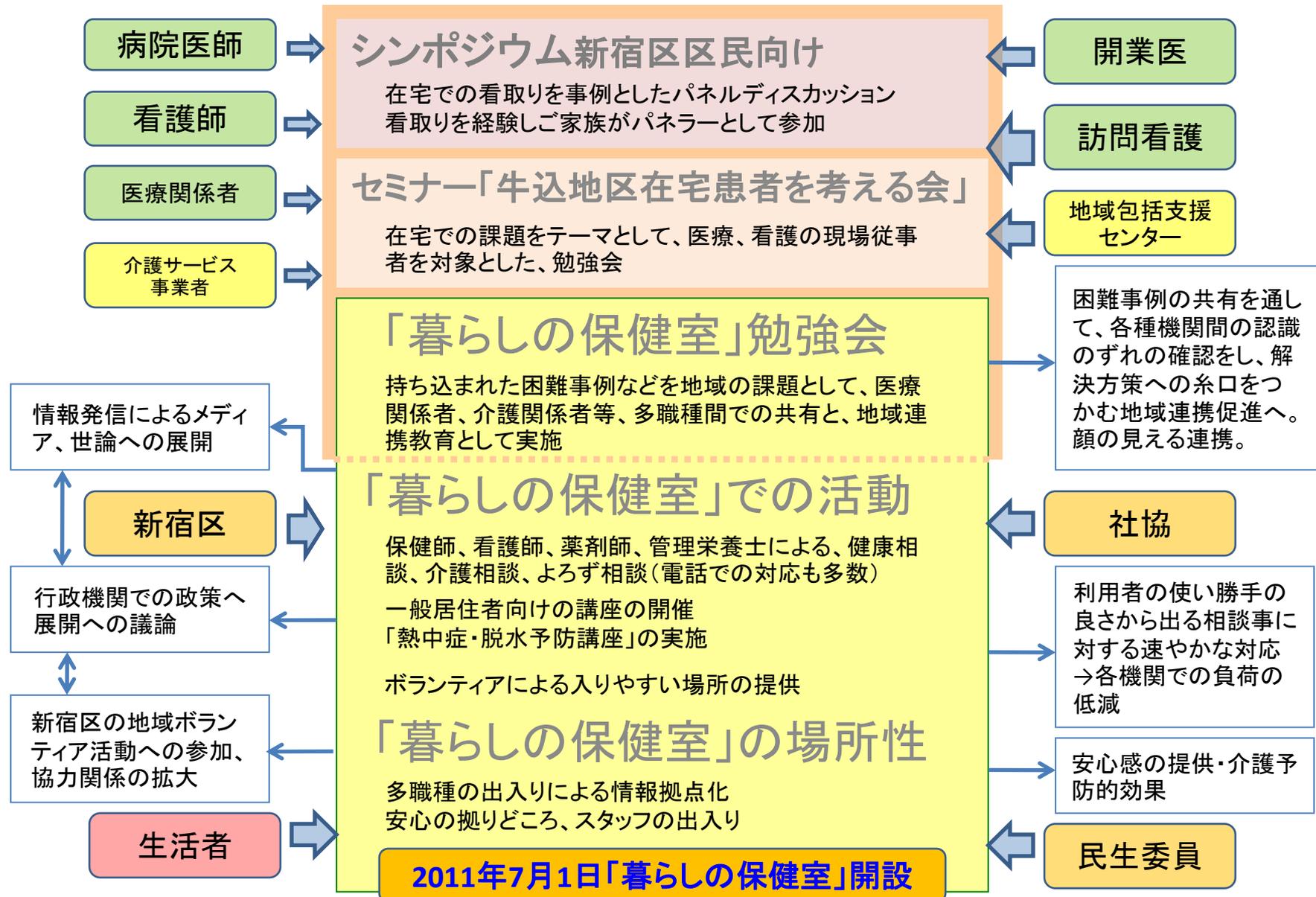
- ・ 個々の事例に対して関係者がケア会議を開き、サービスと役割分担を明確にする。
- ・ 訪問看護師や保健師や相談支援専門員等が、患者に提供されるサービスをコーディネートする。
- ・ 必要に応じて患者・家族の定期的なフォローアップを行い、継続的な支援を実施する。
- ・ その他、患者の生活支援に関する情報を提供する。



- ・家族の介護負担が重い
- ・教育機関の理解が不十分
- ・サービス提供者同士が他のサービス提供者の行っていることを知らない

- ・相談支援専門員に働きかけ、痰の吸引が可能な訪問介護を導入
- ・短期入所の受け入れ先を確保し、家族のレスパイトを行った
- ・教育機関に医療的な研修を行い、重度者受入への理解を促進
- ・サービス担当者会議を開催し、関係者間の情報共有を図った

「暮らしの保健室」での在宅連携拠点事業



患者・家族の相談支援

(3) あおぞらクリニック墨田

在宅医、訪問看護師、訪問リハビリ、訪問介護士等で定期的にケア会議を開き、個々の患者のニーズに合わせたケアをコーディネートしている。



小児患者のレスパイト先が確保できなかったが、福祉型入所施設と訪問看護ステーションとが連携することで、レスパイトが実現した。

(1) 長野県立こども病院

長野こども療育推進サークル「ゆうテラス」が患者家族を支援している。

(2) 埼玉医大総合医療センター

他院の患者に関して、他院のMSW、地域の相談支援専門員、病院医師、訪問看護師とでカンファレンスを開き、当該患者の在宅医療を受け入れた。

⑥関係者の負担軽減・理解促進

○背景・目的

・家族や地域の関係者が在宅医療を受ける小児等を支えて行くためには、気軽に相談できる環境の整備が重要である。

○内容

患者・家族や小児等の在宅医療を支える関係者に対して、勉強会の実施などを通して、小児の在宅医療等に関する理解の促進や負担の軽減を図るための取り組みを行うこと

(具体例)

- ・相談室を設置し、患者や関係者からの相談に対応したり、必要に応じて適切な書籍を紹介する。
- ・患者・家族が参画する定期的なピアカウンセリングの場を提供する。
- ・小児在宅医療患者を持つ家庭に対し、ニーズを踏まえた勉強会を開催する。
- ・講演会等により、障がい児のあり方について広く周知啓発する。



在宅ケアセンター
ひなたぼっこ(平成24年)

総合相談窓口の設置

相談件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平成24年度	7	2	6	6	7	9	7	3	9	9	4		69
(うち地域住民)	1		1		2		1			3	2		10
平成23年度					2	1	1	2	3	8	3	9	29

相談元施設

施設区分	件数
居宅介護支援事業所	29
医療機関	20
地域住民	10
地域包括支援センター	3
訪問看護ステーション	2
グループホーム	2
障がい者支援センター	1
小規模多機能施設	1

主な相談内容

内容	件数
地域資源の情報提供	19
相談支援	13
医療依存度の高い方の入所先	12
往診医について	10
入所施設について	8

相談件数は昨年度の約2倍以上になりましたが、地域住民からの相談はまだ少ないです。

相談内容データベースを作成。相談業務の品質を高めるとともに、地域の課題抽出等にも役立てることが期待できる。



相談件数は地域からの信頼のリトマス試験紙。医療・介護従事者からの相談は増えているが、地域住民の認知度はまだまだ低い。周知の強化が必要！

地域住民向け周知・啓発活動

住民向けリーフレットの作成



◆リーフレットを地域住民向けに作成。

4000部発行しました!



「市民健康のつどい」に参加

- ◆多くの地域住民が参加する鶴岡市主催の大規模イベント。
- ◆昨年度に引き続き参加して、ブースを出展。
- ◆204人のブース訪問とアンケートへの記載を頂いた。



地域で行われる各種イベントに

- ◆庄内プロジェクト市民公開講座
- ◆庄内地域医療連携の会市民公開講座
- ◆鶴岡市主催福祉体育祭

在宅医療や「ほたる」の普及啓発だけではなく、地域住民からの声を直接聞ける良い機会でした!



地域住民に新しい医療サービスを提供する「ほたる」を知ってもらうことが当面の課題。メディアの積極的活用等も含め、周知・啓発活動を拡大する!

(1)長野県立こども病院

長野こども療育推進サークル「ゆうテラス」が機関誌を発行し、こども病院と協働でシンポジウムや研修会を企画。

(2)埼玉医大総合医療センター

・日本小児在宅医療支援研究会を開催。
一般演題10題、講演2題、シンポジウムを開き、医師、看護師、リハビリ、MSW、保健師、介護職員等280名が参加。

・NICU卒業生とその家族、ボランティア等を集めた同窓会を1回開催し、小児の在宅医療について講義。

・保健師研修会にて小児在宅医療の現状について講義。

(3)あおぞら診療所墨田

3つのシンポジウム「多職種連携」「end-of-life care」「小児在宅医療の実践」を同日に開催。

医師、看護師、PT、OT、MSW、介護職、保健師、薬剤師、教育職、児童指導員、患者家族など320名が参加。

参加者のブログから(抜粋)

①「連携」といふのは「使われられたことば」であらうが、実際は甲斐がないようなもの、具体的なモデルとなりうる関係が築かれてきているということ

またその「連携」といふものが、子どもひとりひとりが地域で生きていく中で開ける、さまざまな分野、医療、介護、福祉、教育etc...に渡っており、「子どもが地域でより豊かに生きる」という同じ方向を見ているということ

そして、そんな取り組みをされている方々がとても魅力的であたたかい***

②(中略)
言葉を奪う子どもたちにとって、医療分野の人、介護分野の人、それぞれの専門性があって、そのどちらも必要不可欠。

色々な場面で見えることだと思うけど、それがどの分野なのか、どっちの仕事なのかとか、業種がどうなのか、そういうことばかりで、「子どもの暮らし」というものを中心に見れば、それぞれの分野の専門性、つまり「強み」が、子どもや家族にとっては、かけがえのない「支え」になるんだと思う。

③(中略)
それぞれの分野の方々が、真摯に、子どもたちのいのち、暮らしについて考えて日々実践してくださっているということは、我が家の生活にとっても、大きな励みだ。

いのちを守り、いのちを育み、夢を叶え、夢を高くつたえる、さまざまな方たちと関わってゆくりとつづつ●●さんと、かあさんの子育ては、とても幸せだ。

今はまだ、言葉が通じず、どこにいても、誰でも、というふうにはいかない小児在宅という分野だけど、だからこそ、たくさんの人が、たくさんの視点で、考え、作り、生かすことができる。

そこには、たくさんの一生懸命生きる子どもたちのいのちのように、希望が溢れている、そんな風に感じた。



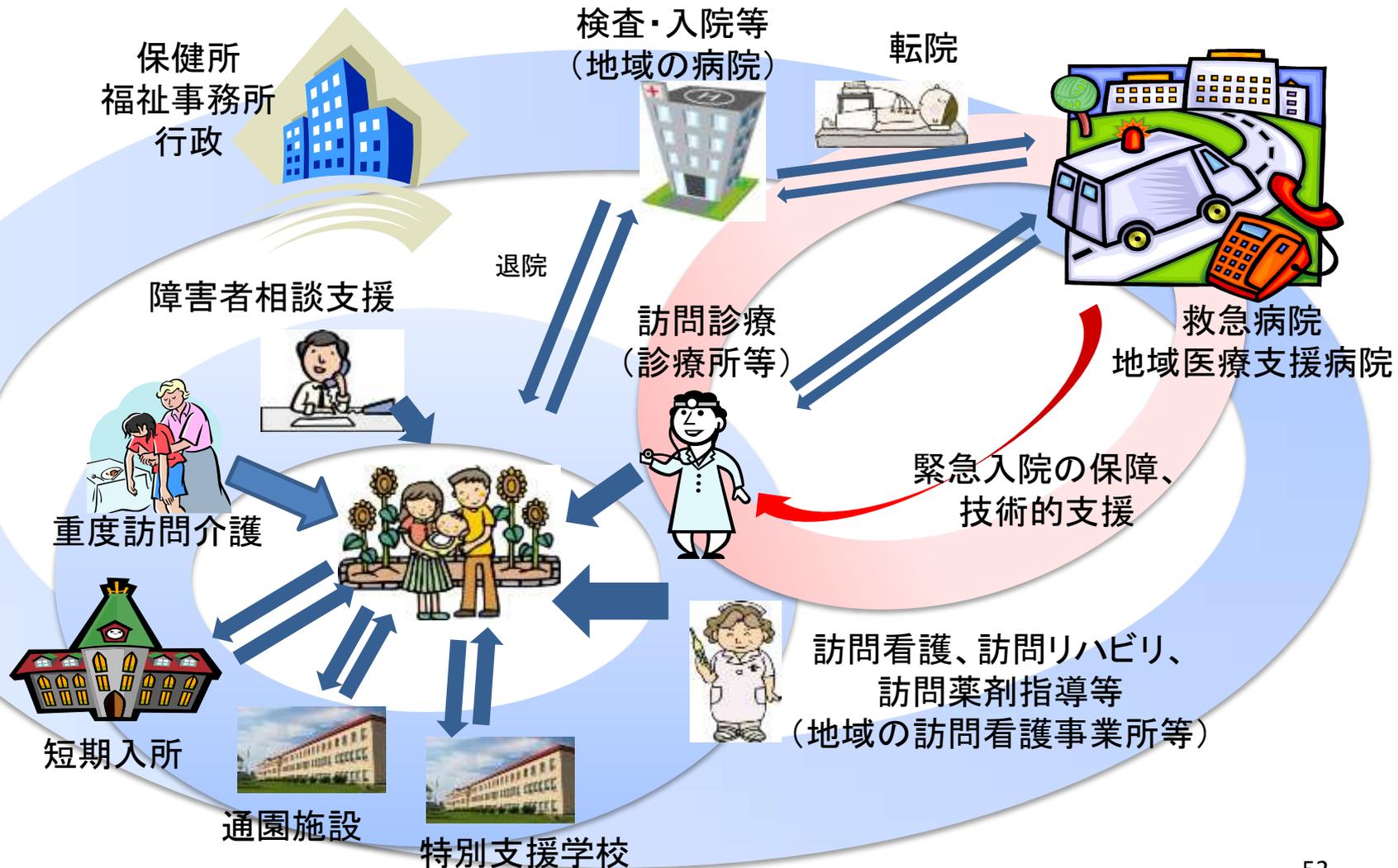
参加者の母親が「多職種連携」の考え方に共感し、自身のブログにコメントを掲載した。

<7>その他(成功事象と今後の課題)

	成功事象	今度の課題
長野県立こども病院	院内に在宅患者用の後方病床11床を確保。稼働率80%。	障害者相談支援専門員との連携
埼玉医大総合医療センター	24時間入院受け入れ体制あり、救急車搬送2件。	介護事業所との連携
あおぞら診療所墨田	訪看STとの連携によって、福祉型障害者施設でのレスパイトが実現。	<ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業の充実 ・地域と病院との連携 ・レスパイトの確保

平成25年度小児等在宅医療連携拠点事業の目指すイメージ

地域の医療・福祉関係者が顔の見える関係でつながり、関係者の連携によって問題が解決できることを目指す。



在宅医療関係施策資料について

■在宅医療の推進について(厚生労働省HP)

http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/zaitaku/index.html

■在宅医療・介護の推進について(厚生労働省HP)

http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/zaitaku/dl/zaitakuiryuu_all.pdf

■小児等在宅医療連携拠点事業

http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/zaitaku/dl/renkeikyotenjigyuu_01.pdf

■多職種協働による在宅チーム医療を担う人材育成事業(国立長寿医療研究センターHP)

<http://www.ncgg.go.jp/zaitaku1/pdf/jinzaiikusei-1-1.pdf>

○都道府県リーダー研修(10月13日、14日開催)資料

http://www.ncgg.go.jp/zaitaku1/jinzaiikusei/leader01_doc.html

■在宅医療・介護の連携における情報通信技術(ICT)活用に関する研究班報告書抜粋

(平成24年度厚生労働科学特別研究事業)

地域における在宅医療・介護連携を進めるために

～市町村主体で医師会と連携して在宅医療介護連携ICTシステムを整備するための考え方と進め方～

http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/zaitaku/dl/h25_0509-01.pdf

■国立長寿医療研究センター

<http://www.ncgg.go.jp/>